

T O P I C S

アグリビジネス創出フェア 2007 へ 動物衛生研究所が出展

アグリビジネス創出フェア 2007 が平成 19 年 11 月 27 日(火)から 28 日(水)の両日、東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)で開催された。農林水産・食品産業分野における共同研究の推進、技術開発とその実用化・産業化の一環として農林水産省主催で開催されたものである。

出展者は、民間企業 79 社、大学関係機関 39 機関、公的団体 18 団体(独立行政法人等)、その他団体 10 団体(NPO 法人等)、マッチング支援機関 19 機関(日本政策投資銀行等)、総計 165 組織であった。

当所は、公的団体として技術支援ブースへ以下の出展をした。

1 パネル展示

- (1) 乳房炎診断装置の開発
- (2) 簡易迅速堆肥腐熟判定キットの開発
- (3) アカバネ病診断キットの開発
- (4) 簡便で高感度なフタトゲチマダニの小型ピロプラズマ原虫保有率検査法の開発
- (5) 抗生物質に代わる抗菌剤の開発

2 実演及び機器・サンプル等展示

- (1) 乳房炎診断装置(機器展示)
- (2) 簡易迅速堆肥腐熟判定キット(Dr. コンボ)(サンプル展示)
- (3) アカバネエライザキット(サンプル展示)
- (4) 小型ピロプラズマ病を媒介するダニ(実物展示)
- (5) ブタリゾチーム精製品を用いたデモ実験(実演)

来場者は、フェア全体で 9,400 名あまり、当所ブースへは、260 名が訪れた。そのうち産官学連携・商談が 9 件あり、1 件の商談が成立した。

同フェアは今回で 4 回目となるが、前回にまして

大学、民間からの出展や参加者が多く、盛況だった。フェアでは食品展示が多く、当初、当所の出展物はあまり一般的ではないのではないかとの危惧する声もあったが、逆に好評だった。食の安全に対する意識の高まりが背景にあるのかも知れない。既に共同研究され、市販されているものでも、新たな引き合いがあったり、思いもかけない分野からの共同研究の提案があったり、充実した 2 日間であった。

(八木行雄研究管理監)

